様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年　6 月 10 日現在

研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2006～2009
課題番号：18520233
研究課題名（和文）英語圏児童文学の視座から見たカナダ・オーストラリア児童文学研究
研究課題名（英文）　A Study of Canadian and Australian Children's Literatures from the Perspective of Children's Literature in English-speaking Countries

研究代表者
桂　宥子　(KATSURA YUKO)
岡山県立大学・情報工学部・教授
研究者番号：10254583

研究成果の概要（和文）：ともにイギリスの植民地として出発したカナダとオーストラリアが、いかにして独自の児童文学を発展させてきたのか、「自然」と「異文化受容」をキーワードに、コンピュータ語彙分析も駆使して研究をおこなった。独特の風土・歴史・文化に育まれてきた両国の児童文学は、英語圏児童文学にバラエティを与え、より豊かなものにしてきた。特に写実的動物物語･多文化主義の作品･ファンタジーの分野で貢献していることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：I have studied, using such keywords as 'nature' and 'reception of foreign cultures', how Canada and Australia, which equally started as British colonies, developed their own children's literatures. This study was done not only by conventional methodology but also using computer analysis of vocabularies. The children's literatures of both countries, having been cultivated in unique environmental, historical and cultural settings, enriched the children's literature of English-speaking countries in general. Both countries greatly contributed to the genres of realistic animal stories, multi-cultural works and fantasy.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	900,000	0	900,000
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総　計	3,300,000	720,000	4,020,000

研究分野：英語圏児童文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学
キーワード：児童文学、カナダ、オーストラリア、英語圏児童文学、自然

１．研究開始当初の背景

英米児童文学といえば、これまで英米２ヶ国が中心であり、カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの児童文学は、その周辺文学にすぎないとみなされてきた。しかし、近年これらの国は目覚ましい勢いで優れた児童文学作品を輩出させている。英語で書かれた児童文学を「英米児童文学」という名前で一括するのは、困難な状況になってきている。

研究代表者は「英米児童文学」ではなく「英

語圏児童文学」という新たな視座から、英語で書かれた児童文学全体の再評価が不可欠であると考え、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、さらにはインド、パキスタン、スリランカ、マレーシア、シンガポール、アフリカ、カリブ海域、西インド諸島などの児童文学の調査・研究を順次行いたいと考えている。

そこで、平成 14 年度～17 年度には科学研究費補助金により「『英語圏児童文学史』再構築のためのカナダ・オーストラリア児童文学研究」（研究代表者：牟田おり゛姫路獨協大学教授）を遂行した。研究成果としては『はじめて学ぶ英米児童文学史』（ミネルヴァ書房、2004）など図書 3 冊、論文 6 編を公表している。

平成 18 年度～21 年度は、引き続き「英語圏児童文学」という視点からカナダとオーストラリアの児童文学の比較研究を行うことにした。

２．研究の目的

本研究の目的は、カナダとオーストラリアの児童文学を「自然観」と「異文化受容」という二つの視点から比較対照し、その結果、等しくイギリス植民地として出発し、共通の母語をもつ両国が、なぜ、また、どのようにしてそれぞれ独自の児童文学を発展させていったのかを明らかにすることにある。さらに、両国児童文学と英米児童文学の影響関係を明らかにし、英語圏児童文学の有機的な繋がりの解明を目指している。

３．研究の方法

(1) テキスト・データベースの作成と分析

カナダやオーストラリアの建国前にイギリスから移民した作家たちとカナダやオーストラリア生まれの両国建国期の作家たちの作品のテキスト・データベースを作成し、自然描写に使われている語彙の違いを分析した。その結果を用いて彼らの自然観の違いを解析し、カナダとオーストラリアの児童文学の比較研究を行った。

(2) 研究協力者との共同研究

本邦におけるオーストラリア児童文学研究の第一人者である姫路獨協大学の牟田おり゛教授と頻繁に会合を持ち、カナダとオーストラリアの児童文学の比較研究及び情報交換を行った。

(3) 研究資料の収集

国内：カナダ大使館・オーストラリア大使館の研究情報センター、追手門学院大学のオーストラリア・ライブラリーなどを利用して、調査・研究及び資料の収集を行なった。

海外：カリフォルニア大学バークレー校（平成 19 年度）、ロサンジェルス校（平成 21 年度）、サンタバーバラ校（平成 21 年度）、スタンフォード大学（平成 19 年度）の各図書館において、英語圏児童文学に関する調査・研究及び資料の収集を行なった。

４．研究成果

(1) テキスト・データベースの作成と分析

① テキスト・データベースの作成

カナダ・オーストラリアの建国期の作家を中心に作品を収集した。チャールズ・G.D.ロバーツ(C.G.D. Roberts)の主要な動物物語、L.M.モンゴメリ（L.M. Montgomery）の日記を含む 27 作品及びカナダの絵本 275 作品、ホウィット(W. Howitt)やペドリー(E. Pedley)のオーストラリアの児童文学作品のテキスト・データベースを作成した。カナダ・オーストラリア児童文学に関して、日本国内でこれだけのテキスト・データベースを所有している研究機関は他にないであろう。本テキスト・データベースは、今後カナダ・オーストラリア児童文学に関する新しい研究の展開に寄与するものである。

② テキスト・データベースを使った分析

自然に関する語彙について、イギリスから両国へ移民した作家と現地生まれの両国建国期の作家の作品のコンピュータ分析を行った。これらの分析から、イギリス出身の作家による作品より、現地生まれの作家の作品の方が自然描写の比率が高いことが分かる。

作品中の自然描写に関する単語上位 20 位を出力すると、両国建国期の作家の作品は自然描写が詳細かつ多彩であり、独特の動植物が登場し、先住民にも言及していることが分かる。一方、イギリス出身の作家たちは、母国の穏やかな自然を表現する語彙でしか「寂しい大陸」（オーストラリア）、「未知の辺境」（カナダ）と呼ばれた新大陸の自然を表現することができなかった。

モンゴメリ日記（*The Selected Journals of L.M. Montgomery*. Vol.1-5, 1985ー1998）のデータベースを用い、コンピュータ分析により、日記に記された彼女の移動情報を抽出・提示した。この成果の一部は「文学作品における登場人物の移動情報抽出・提示システムの提案」として発表した（第 10 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム，広島市立大学，2008.11.22）。

次の図は、モンゴメリの 1874 年～1911 年のプリンス・エドワード島における移動情報を日記から抽出して、移動軌跡としてグーグル・マップ上に提示したものである。

L.M. モンゴメリの移動軌跡

（2）カナダとオーストラリアの児童文学の比較研究

① 両国児童文学作品の年表を作成した。

1800～1900 年、1900～1940 年、1940～1970 年、1970～現在の 4 期に時代区分し、時代思潮と作品の傾向を分析した。2 カ国の児童文学の本格的な比較研究は国内ばかりでなく、海外にも見られないが、その概要は以下の通りである。

カナダとオーストラリアにおいてイギリスの植民地化がはじまったのは、それぞれ 1763 年、1788 年のことであった。カナダには、アメリカ独立戦争（1775-1783）の折に、イギリスを支持する王党派が大挙亡命し、カナダの保守的風土が生まれる要因ともなった。一方、オーストラリアでは、入植者の多くが囚人であったため、排他主義から白豪主義へと向かった。両国の初期の児童文学は、イギリス人作家により、イギリスの読者のために辺境の自然や動植物がエキゾチックに描かれた冒険物語であった。

カナダは 1867 年に連邦を結成し、自治領となった。建国期の作家であるロバーツとシートン（E.T. Seton）は、カナダ児童文学を特色づけることになる写実的動物物語を多数著した。一方、モンゴメリは不朽の名作『赤毛のアン』（*Anne of Green Gables*, 1908）を生んだ。

オーストラリア連邦が結成されたのは 1901 年であり、建国期には、ペドリーの『ドットとカンガルー』（*Dot and the Kangaroo*, 1899）、ギブズ(M Gibbs)の『スナグルポットとカドルパイ』（*Tales of Snugglepot and Cuddlepie*, 1918）、リンゼー(N. Lindsay)の『まほうのプディング』（*The Magic Pudding*, 1918）などが著された。これらはファンタジー作品である。この国に早くからファンタジーが誕生したことは注目される。また自然保護という、その後オーストラリア児童文学に一貫して流れる精神がすでに垣間見られる。

2 つの世界大戦のたびに、また建国百年を迎えると、ナショナリズムが高揚し、両国民は国への帰属意識とカナダ人、オーストラリア人としてのアイデンティティを強めていった。それは自信に満ちた作家と児童文学作品の誕生を意味した。

1960 年代に入るとカナダではファーストネイションズの民話集の出版が盛んになる。1970 年代は、カナダ児童文学育成の環境が整い、それ以降、カナダの絵本、ファンタジーの分野が発展した。

オーストラリアでは、1960 年代から本格的な児童文学が書かれるようなる。火事、洪水など極限状況下の子どもたちを描くサウスオール(I. Southall)、土着の精も取り込んだファンタジー作家のライトソン（P. Wrightson）等が傑作を残した。一方、チョンシー（N. Chauncy）の『タンガラ』（*Thngara*, 1960)は、アボリジニ殺戮というオーストラリア人の暗い過去に触れたタイム・ファンタジーである。1960 年代中ごろから白豪主義が解体し始め、それと呼応するようにブリンスミード(H.F. Brinsmead)の『青サギ牧場』（*Pastures of the Blue Drane*, 1964)のような作品が書かれた。

1988 年、カナダ多文化主義法が交付された。オーストラリアもカナダに倣って、多文化主義を唱えるようになり、かつての白豪主義と決別する。「マルティカルチュラリズム」は現代カナダ・オーストラリア児童文学に通底する大きなテーマとなっている。

カナダ・オーストラリア児童文学の比較研究の成果の一部は、桂宥子編著『英米絵本史』（ミネルヴァ書房）に発表予定である。また、研究協力者である牟田教授は「現代オーストラリア児童文学―地域色をめぐって―」と題して、イギリス児童文学会中部支部において発表している（2009.5.16）。

②カナダ・オーストラリア児童文学の特色

A バックグラウンド:カナダ人とオーストラリア人に共通する気質は「弱者・敗者」意識であろう。カナダ人は植民地宗主国であるイギリスと若いエネルギーに満ちたアメリカ合衆国という二つの「ビッグ・ブラザー」に挟まれ、両国に対する劣等感を抱いてきた。天寿をまっとうすることなく、哀れな末路を迎える野生動物に、カナダ人は自らの姿を重ねあわせてきた。一方、オーストラリアは監獄としての国の出発とアボリジニに対する卑劣な行為に負い目を感じ、自虐的なユーモア感覚をもっている。彼らは『ドットとカンガルー』の主人公の名前「ドット」が示唆するように、大自然の中で人間は点（dot）のような存在でしかないと認識し、ブッシュ（森や灌木の茂み）を恐怖と神秘のシンボルととらえてきた。

B 異文化受容と多文化主義：アメリカ合衆国と隣接するカナダは、「サラダボール」と呼ばれ人種のるつぼである隣国に対抗して、「モザイク国家」を目指した。それぞれの移民が祖国の文化を守りながら、カナダ人としてまとまるという大実験である。オーストラリアも、「カレンシィ・ラッド」（植民地生まれの子弟）による排他主義や白人主義を乗り越えて、多民族国家・多文化社会を選択した。

(3)英語圏児童文学のなかのカナダ・オーストラリア児童文学の位置づけ

イギリスの児童文学は 17 世紀からはじまる古い歴史を誇っているが、今やカナダ・オーストラリアの児童文学を抜きにして英語圏児童文学を語ることはできない。独特の風土、歴史、文化、社会で育まれてきた両国の児童文学は、英米児童文学にバラエティを与え、それをより豊かなものとすることに貢献している。

(4)準備的研究

国際子ども図書館、ユネスコ・アジア文化センター図書館において資料収集を行い、ニュージーランドとインドの児童文学について、準備的研究を開始した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

①「 桂　宥子、英米絵本の発展 ― 印刷技術の視点から ― 、岡山県立大学語学センター研究紀要、査読無、第４号、2006、21-34

② 桂　宥子、ウォルター・クレイン絵本考、岡山県立大学語学センター研究紀要、査読無、第５号、2007、15-21

③ 桂　宥子、仕掛け絵本からポップアップ絵本へ ― ロバート・サブダの作品論、岡山県立大学語学センター研究紀要、査読有、第６号、2008、10-17

④ 桂　宥子、レズリー・ブルックと *Johnny Crow's Garden*、岡山県立大学語学センター研究紀要、査読有、第７号、2009、1-6

⑤ 桂　宥子、『赤毛のアン』の魅力，としょかん通信、2008、９月号、1-2

〔学会発表〕（計２件）

① 牟田おりゑ、現代オーストラ児童文学―地域色をめぐって―、日本イギリス児童文学会中部支部、2009. 5

② 冨岡航、桂　宥子、文学作品における登場人物の移動情報抽出・提示システムの提案、第10回IEEE広島支部学生シンポジウム、2008.11

〔図書〕（計５件）

①「 桂　宥子編著、ミネルヴァ書房、英米の絵本、2006
英米絵本の発展とテクノロジーの進歩、2-5
イギリス絵本の第１次黄金時代―近代絵本の確立、19-19
窓の下で、26-27
ハメルンの笛吹き、28-29
アメリカ絵本の黄金時代、84-85
ゆきのひ、148-149
イギリス絵本の第２次黄金時代、166-167
まどのむこう、168-169
不思議の国のアリス、196-197
カナダに夏が来た話、236-137
公園でかくれんぼ、244-245

② 桂　宥子、他、ミネルヴァ書房、英語文学事典、2007
ガアグ、126-127
キーピング、145
ルイス・キャロル、155-156
グリーナウェイ、177
E.T.シートン、232-233
ベーメルマンス、542-543
モワット、645-646
L.M.モンゴメリ、646-647
ロバーツ、708
児童文学、759-758

③ 桂　宥子編著、ミネルヴァ書房、赤毛のアン、2008
『赤毛のアン』の作者モンゴメリの生涯とその作品、3-15
モンゴメリの作品舞台を巡る、16-24
主な登場人物、36
あらすじ、36
モンゴメリの日記とその出会い、83-84
『赤毛のアン』を知るために、資料:10-14

④ 桂　宥子、他、ミネルヴァ書房、英米児童文学のベストセラー40、2009
不思議の国のアリス、2-5
赤毛のアン、166-169

⑤ 桂　宥子、他、ミネルヴァ書房、英米絵本のベストセラー40、2009
ゆきのひ、14-17
ワイルドスミスの ABC、158-161

６．研究組織

(1)研究代表者

桂　宥子　(KATSURA YUKO)
岡山県立大学・情報工学部・教授
研究者番号：10254583